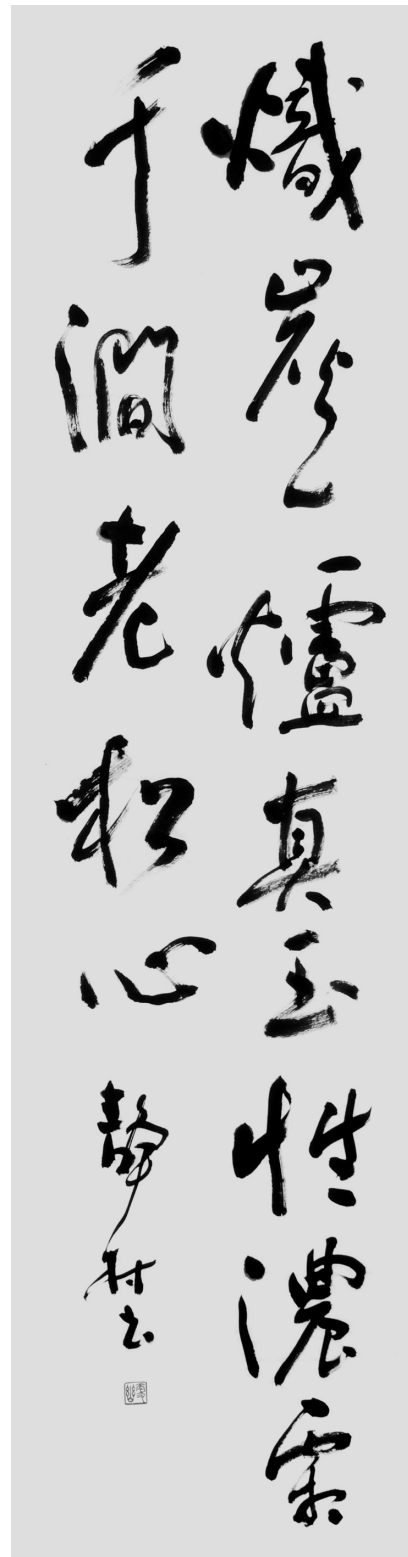


A

鈴木静村書

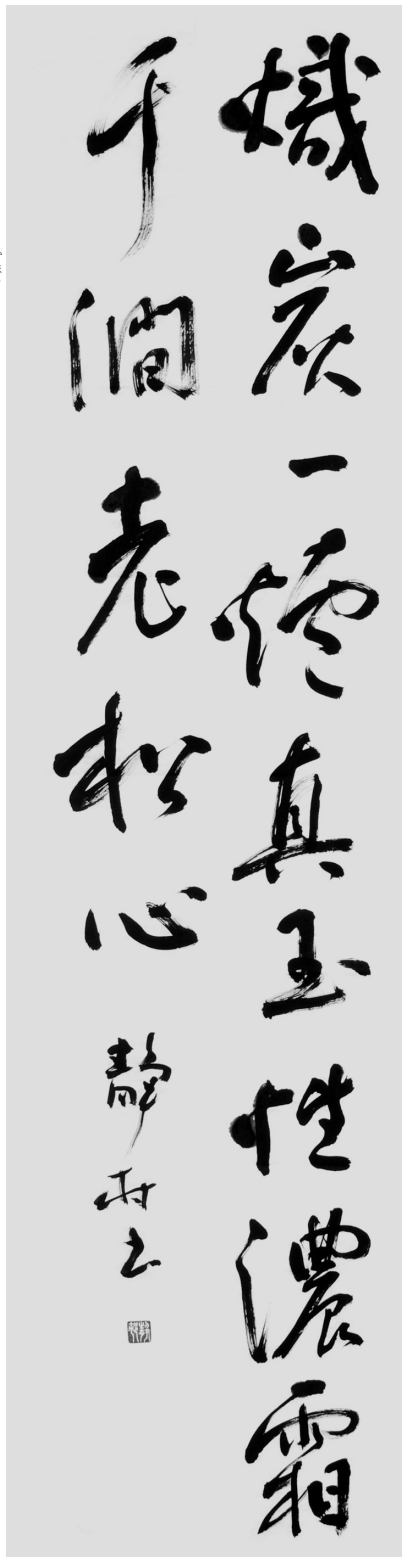
熾炭一爐真玉性 濃霜千澗老松心 (韓偓)  
熾炭一爐真玉の性、濃霜千澗老松の心。



B

概観

筆の「表・裏」の違いについては、今までにも触れてきたが、かなの用筆でいう「裏返し裏返し」の筆遣い。もちろん漢字用筆にも必須。線のレバトリリーを広める手法の一つ。私の好みでもあり、常々クセにもなっている位。作例の中では、爐、真性、松。特に初歩段階では、この技法への習熟を勧めたい。



主な文字について

熾 戈法が主画。炭 A草書「一」に連綿。爐 B旁の崩し方覚えてほしい。真 下辺二画に変化。性 墨継ぎ。偏旁幾分相違。濃 それとなく変容。霜 B脈絡の斜画、目障り一工夫を。澗 AB共、バックとしない。打開させてほしい。老松心 墨継ぎ。単調にならぬよう線に一考。

訳：炭をどんどんおこした炉は、まことの玉のごときよい炉で、きびしい千澗の霜には松の心が見えてゆかしい。

予告 (二月二十二日締切)

長風如刀剪枯葉

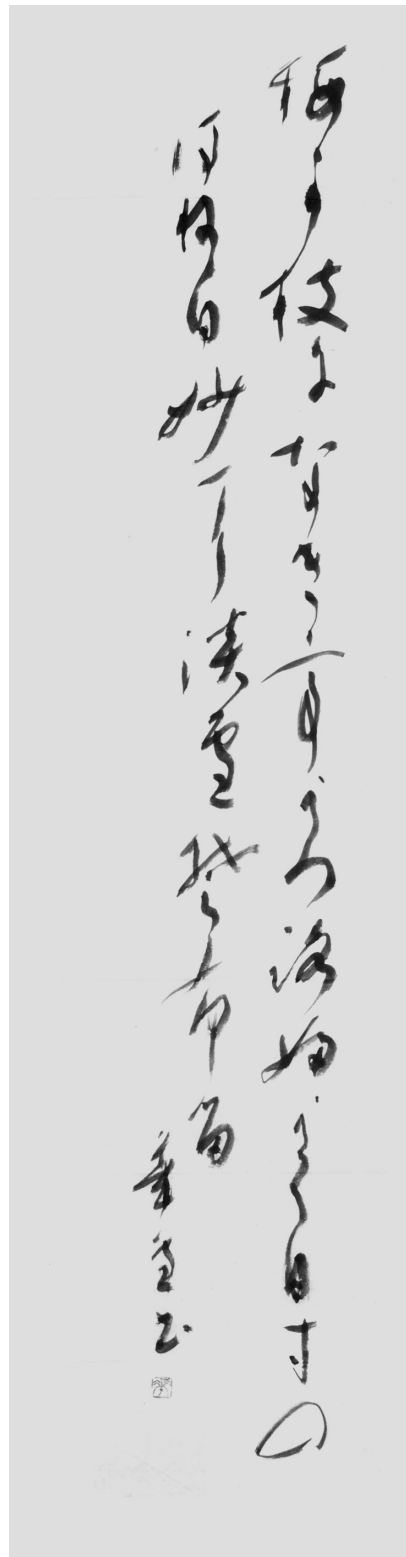
大河似箭浮輕舟 (韋応物)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

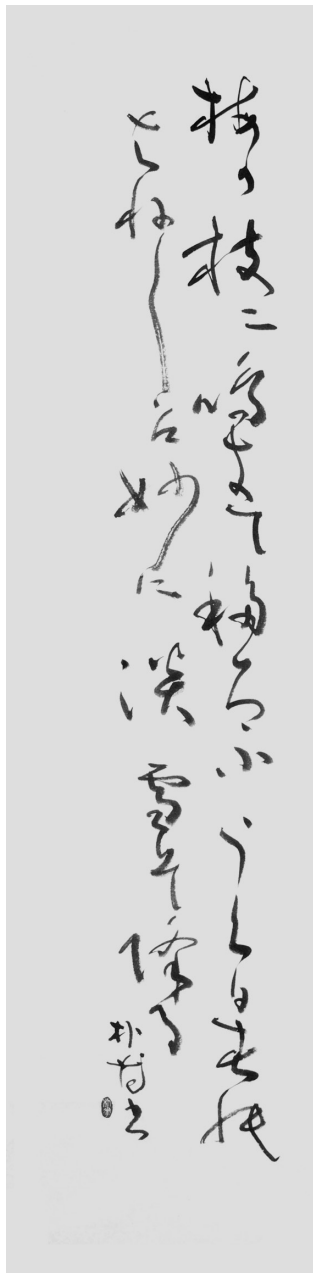
梅が枝になきてうつろふ鶯の羽根しろたへにあは雪ぞふる  
梅可枝ルなき亭うつ路婦うく日寸のはね白妙耳淡雪楚布留  
(新古今和歌集 読人しらず)



B

向山朴花先生書

梅可枝二鳴支て移ろふう久日春能者ねし呂妙に淡雪を降る



学 び 方

今回は、平岡先生の御作に準じて、二行書を、やや右に寄せてみました。余白の取り方で、作品の雰囲気が大分変化して見えます。難易度の高い、変体仮名を少なくし、平仮名と漢字を用いてみました。  
書き出しの「梅」は、小さめに墨を入れ、続く「枝」の「木偏」へと、変化を付けます。  
一行の行間を隣接した為、更に右左隣り合う文字に配慮します。例えば、字幅のある漢字が重ならぬように、文字の大小、伸縮などの工夫です。「者ねし呂妙」の渴筆部分は、伸びやかな線を取り入れ、「淡雪」で墨を入れます。漢字部分は、仮名作品に添うよう柔軟な線質を、そして、判別しやすい文字を選びます。又、手本通りでなく、字典から、気に入った文字を探し出すのも一工夫です。

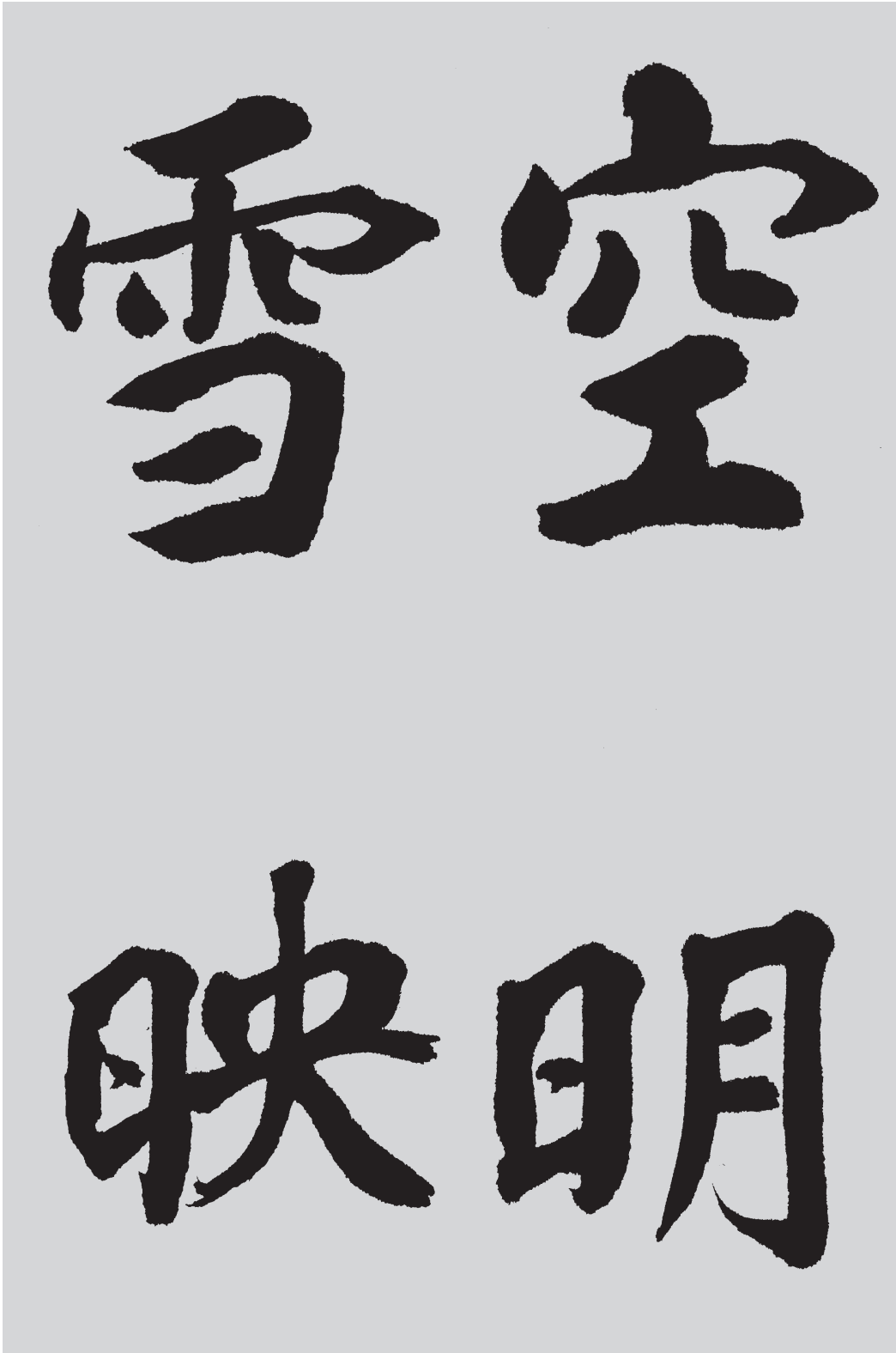
予告 (二月二十二日締切) あさ霞ふかく見ゆるやけぶりたつ室の八島のわたりなるらん (新古今和歌集)

「詠み人知らず」は、歌の選集で、作者が不明の場合か、作者を明らかに示しにくい事情のある場合に用い、古今集以下の勅撰集に多いと言われる。  
「白妙」は、木の皮で織った白い布の意。  
「淡雪」は泡のように白く細かい雪の意。  
参考に、藤原良經の「鶯の羽しろたへにふる雪をうち拂ふにも梅の香ぞする」がある。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

(大虚清白) 空明かに雪映ず、(運行論)

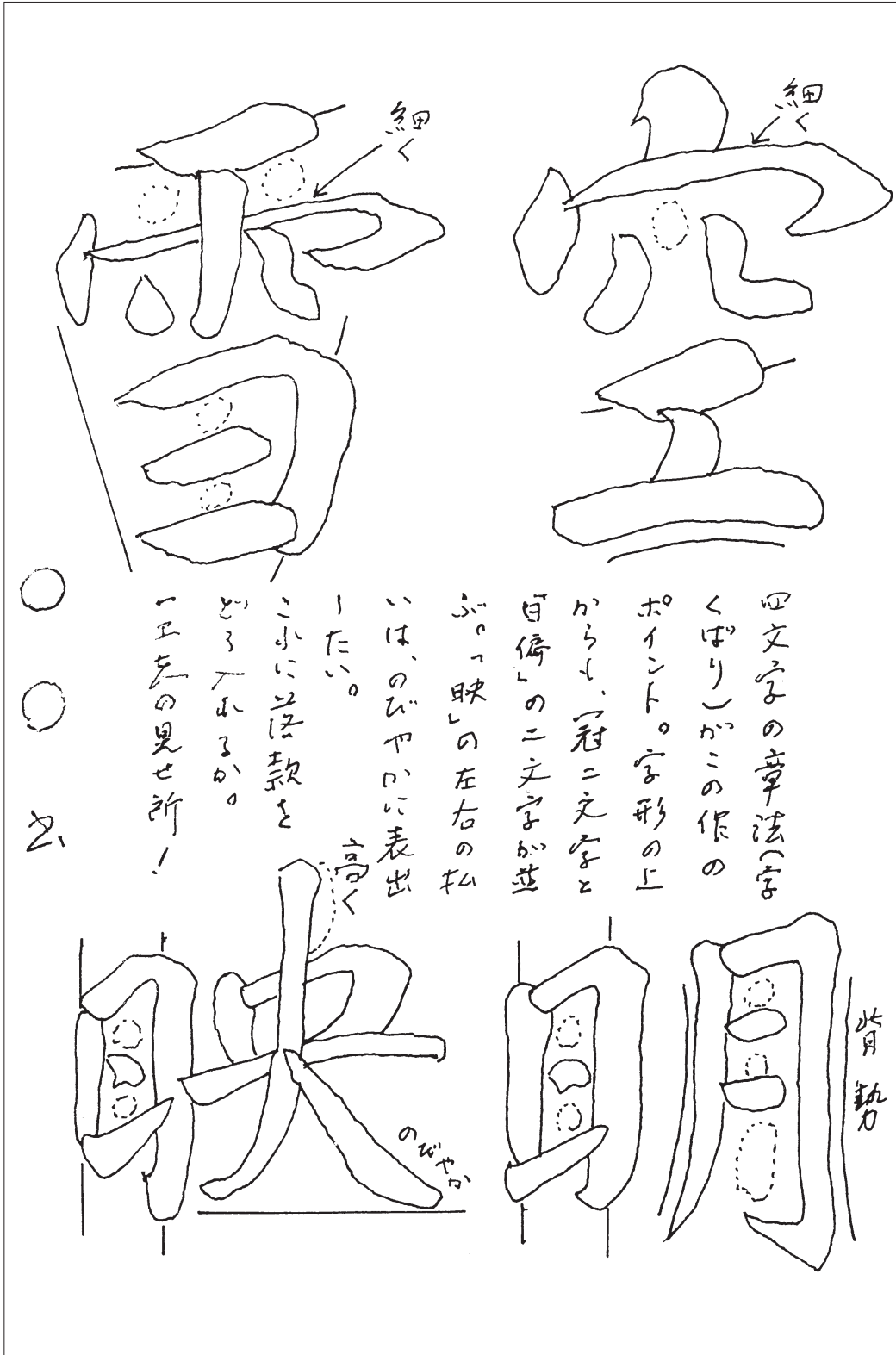


訳：空は清く明かで雪が美しく映えている。

▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

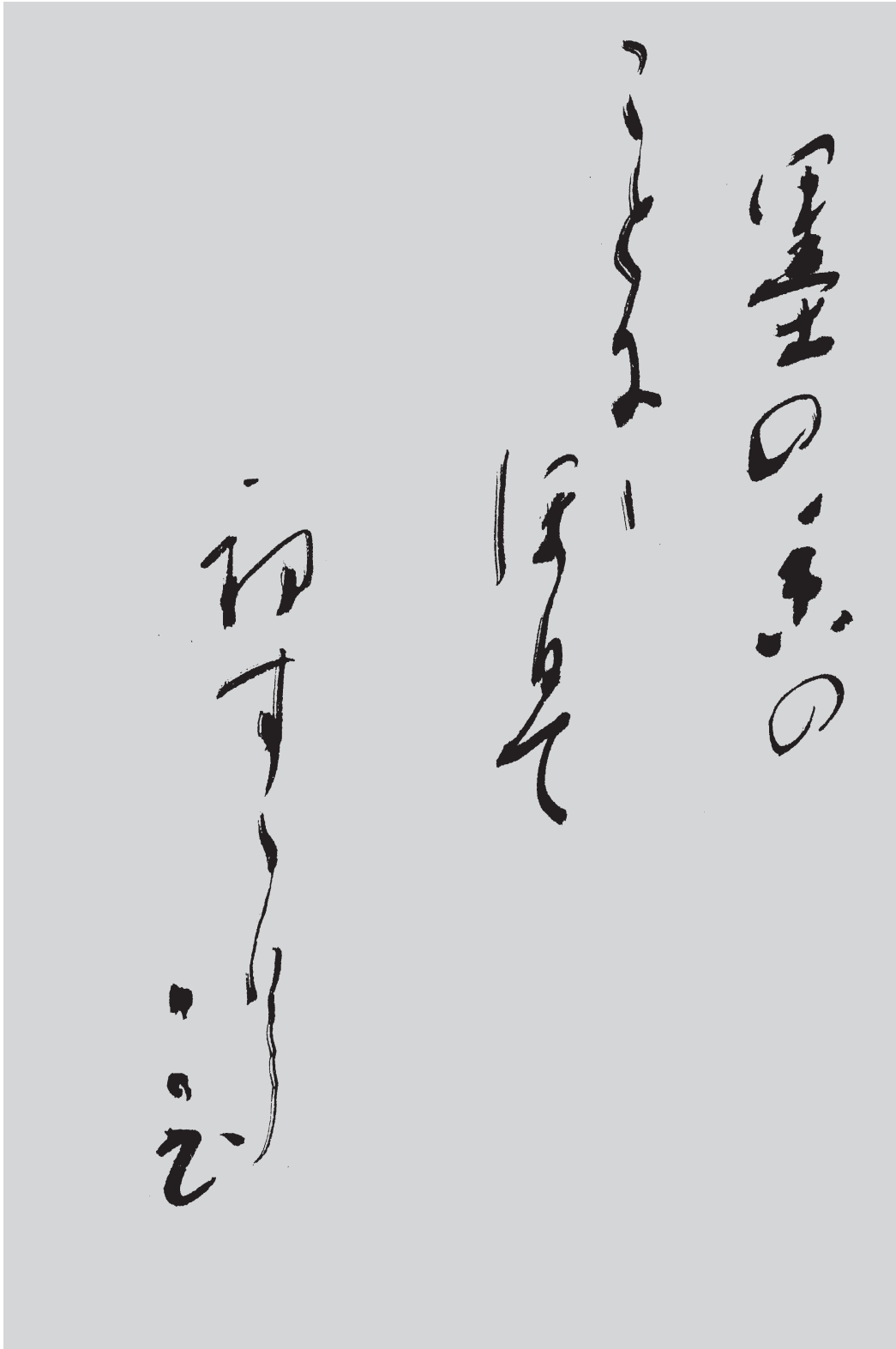
- ①漢字部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



平岡華雪先生書

墨の香の殊にほひて初すずり(喜久榮)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ①かな部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

書き込んでは、流しこ

一行目の「墨の香の」漢字  
調が後の「主調の」こと

「柳」の用筆を後の、  
「柳揚化を心懸けたい。左群の下五句、二語款で右群に照応させ、特に  
「リ」はスマートフォンに依る。注「日」は空体のな参考考に。

注  
りり日

条幅部 随意参考

小暮 崧華 先生 書

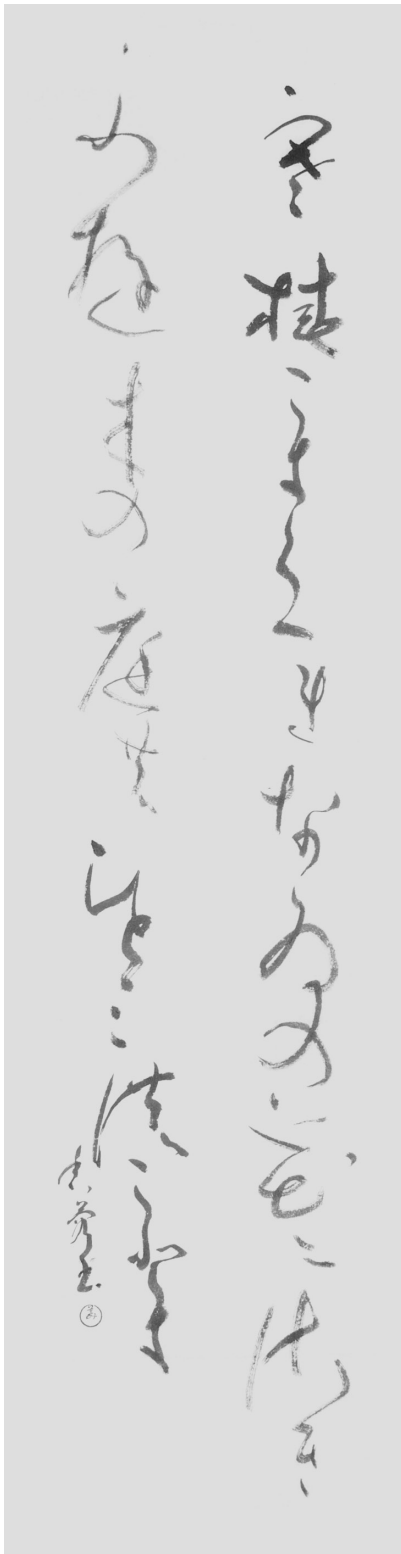
入夜雪花連岸白 傍人燈火隔橋明 (鄭承社)  
 夜に入り、雪花岸に連つて白く、人に傍うの灯火橋を隔てて明なり。



訳：夜になって雪は岸にふりつづいて白く、人に伴う灯火は橋向うへ明らかに見える。

川上 香蓉 先生 書

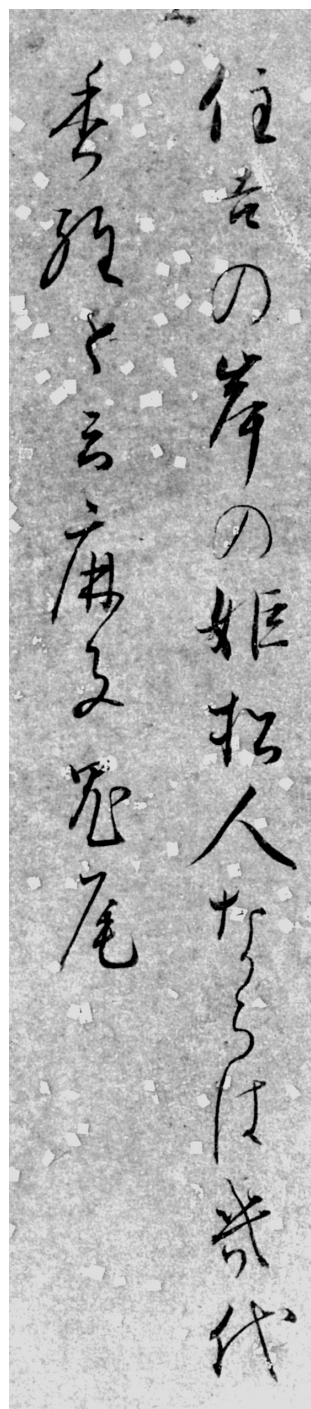
寒椿こき紅の花にさき冬木の庭の瞳のごとき (窪田空穂)  
 寒椿こき支久連なるの花二佐きふ遊木の庭農ひと三濃こ登支



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

# 条幅臨書部課題

宮 絢子先生担当 元永本古今集



住吉の岸のひめ松人ならば  
いくよかへしと(い)はまし物を  
い：古今和歌集には「と」となっている。

住吉の岸の姫松人ならば幾代  
香経と云麻子鬼尾  
子(し)：万葉仮名には存在する。

## △学び方▽

- 1、漢字を多用してまとめることに主眼を置いた作品として、  
①漢字十五文字、平仮名六文字で構成されています。
- ②漢字一文字一文字が筆圧に変化のある線で構成されています。平仮名の線には、変化をつけないようにしています。
- ③横画への転折は、同じような角度になっています。

住吉の岸の姫松人  
香経と云麻子

2、万葉仮名とも違った万葉読みの文字使いのうたの参考に

娘とへしと

云麻子鬼尾 いはましものを

※万葉読みの文字使いのうたとして、次のような部分もある。

子磐破 経臨 後令者  
ちはやぶる へぬらん いまよりは

夕者 老家戸尔  
ゆうされば わがやどに

※条幅臨書部は出品料無料です。

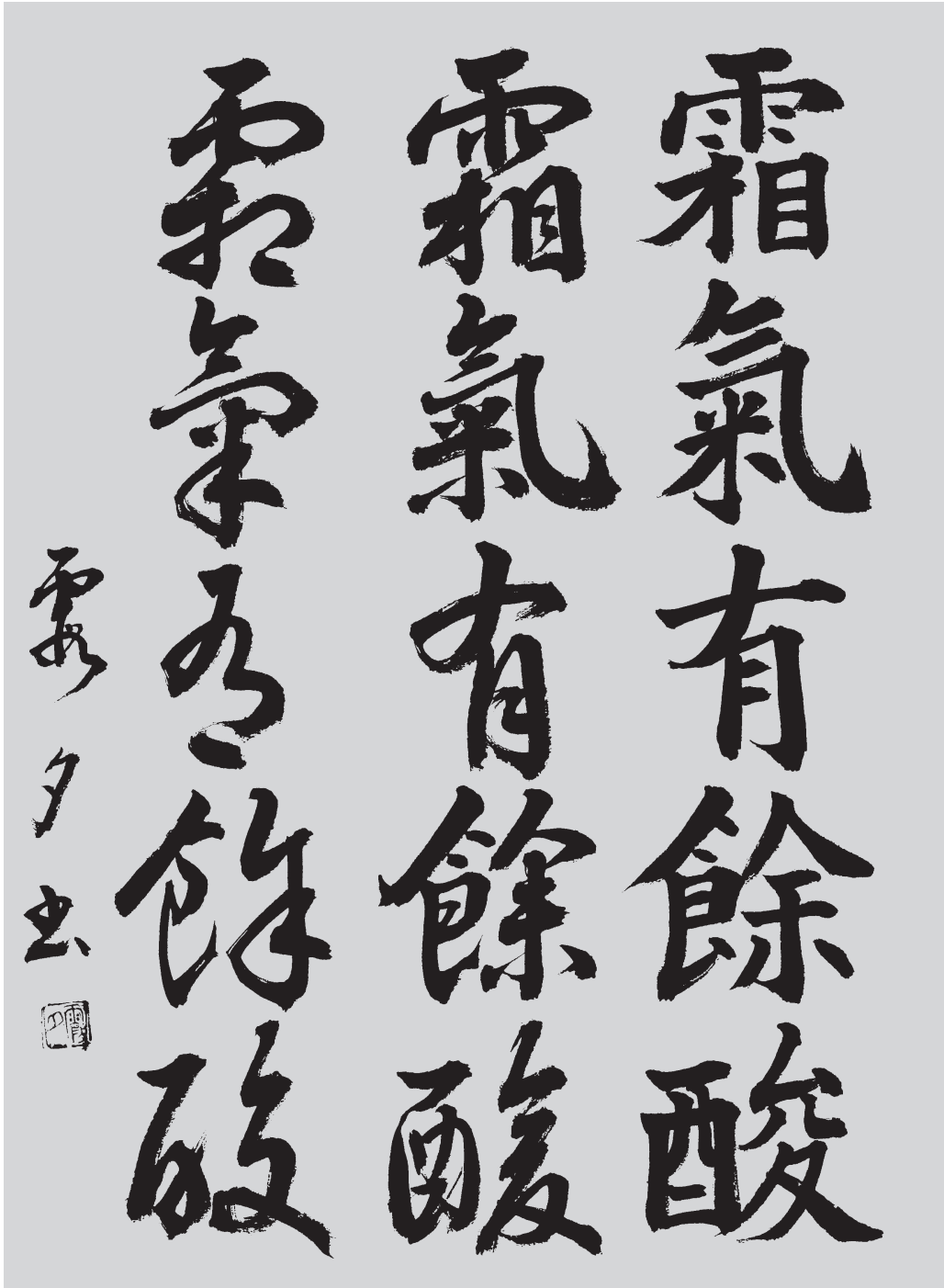
◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。



楷、行、草、三 体 参 考

外川霞夕先生書

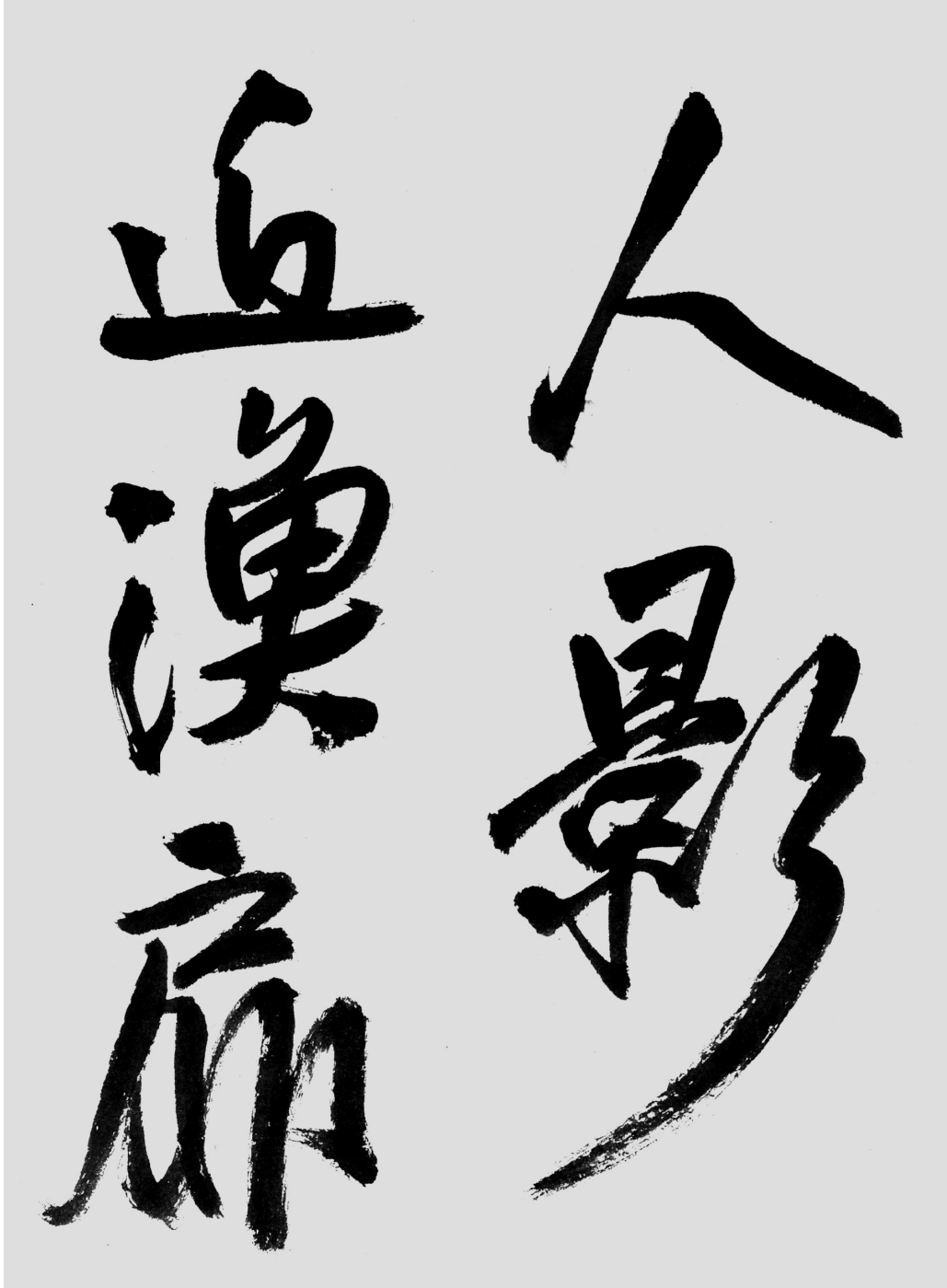
霜氣有餘酸（魏收）  
霜氣余酸有り。



訳：霜の気は凛々として厳しくいたまじき上にもいたましい。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

臨 書 参 考



王 鐸 (明)

人影近漁扉  
人影漁扉に近し。

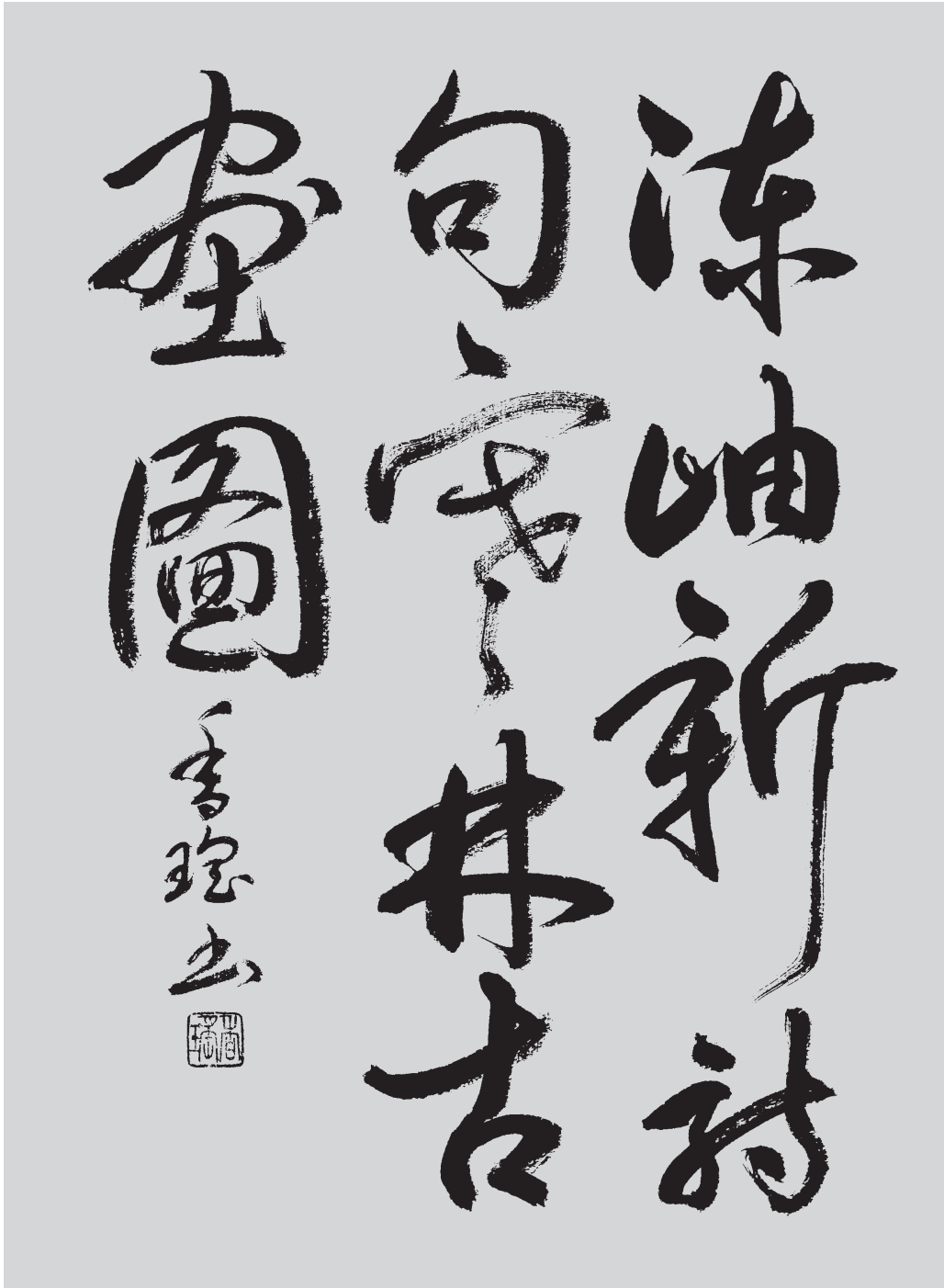
中国法書選 (二玄社)

◆随意部参考として出品してください。

随 意 部 参 考

内藤香瑶先生書

凍岫新詩句 寒林古畫圖（呂子羽）  
凍岫新詩句、寒林古畫圖



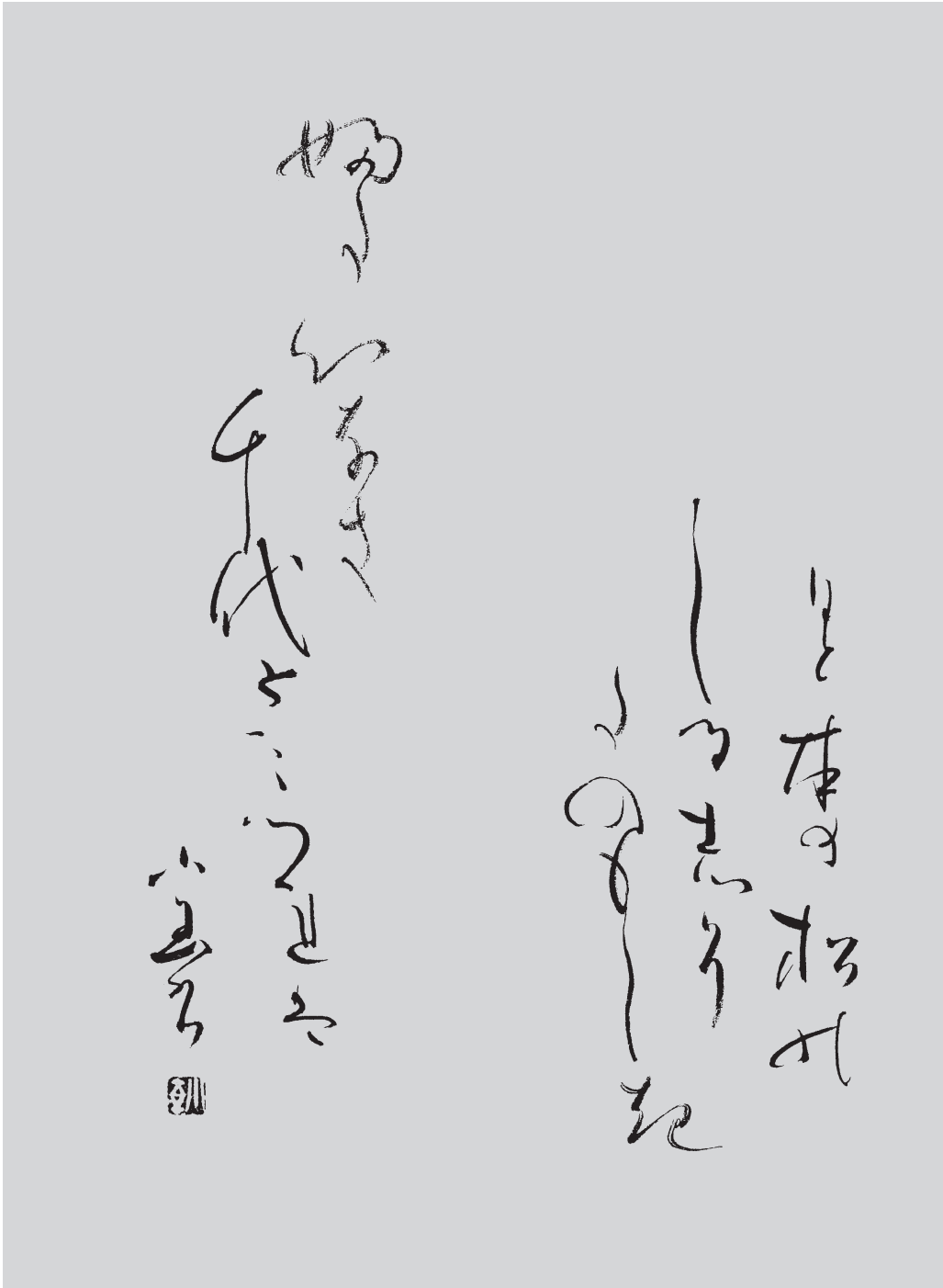
訳：冬の山の洞穴の枯淡さは新詩句にも比すべく、葉の落ちた山林は古びた絵画にも等しい。

添削又は手本希望者は本会規定により、内藤香瑶先生（〒334-0112 春日部市西金野井338-59）に直接お申し込みください。

随 意 部 参 考

高山小玉先生書

一本の松のしるしぞ頼もしきふた心なき千代とみつれば（後拾遺和歌集 源 兼隆）  
日と本の松能しる志曾多のもし起婦多心奈支千代と三川連盤



添削又は手本希望者は本会規定により、高山小玉先生（〒114-0032 北区中十条2-17-12）に直接お申し込みください。

# 硬筆部 課題参考

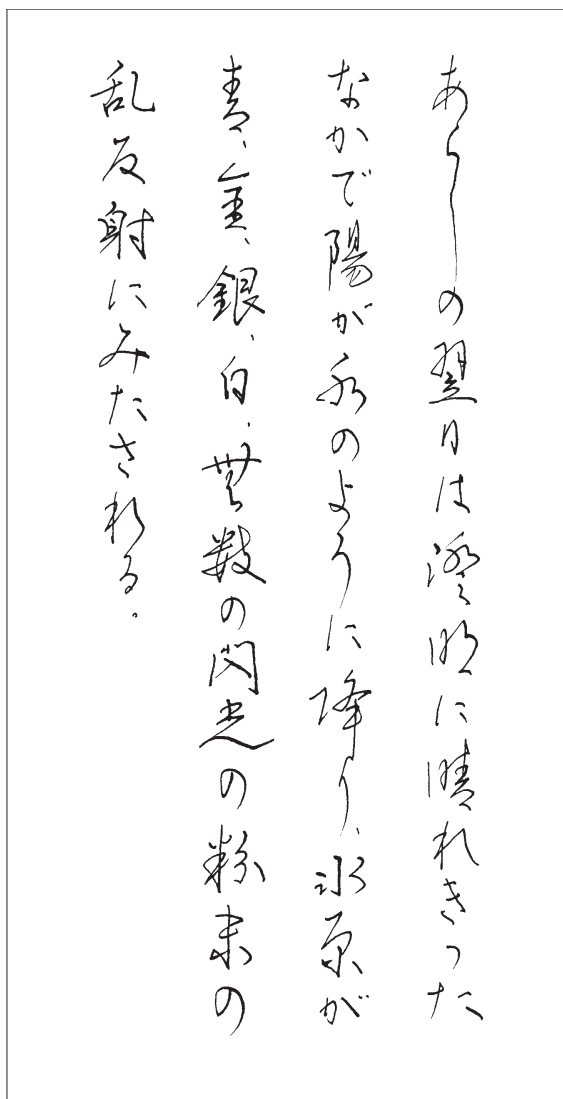
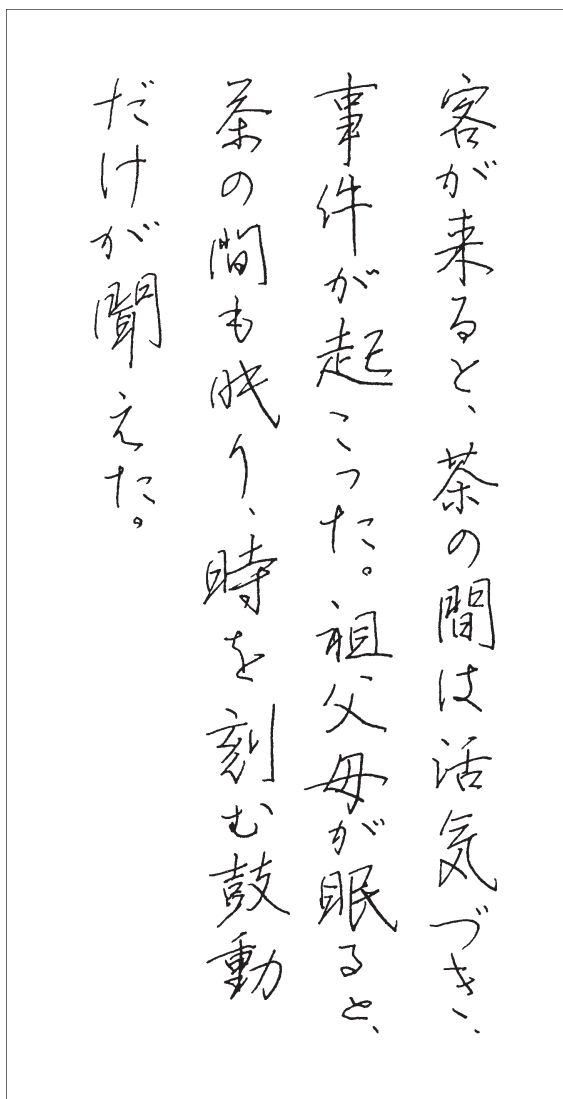
(一月二十二日締切)

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

あらしの翌日は澄みに晴れきったなかで陽が水のように降り、水原が青、銀、白、無数の閃光の粉末の乱反射にみたされる。

(「白いページ」開高 健)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は400円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (6) 課題 1 六〇〇円  
課題 2 三〇〇円

課題 1 石原春香先生 三三〇〇八七

高崎市楽間町二四〇二一

課題 2 松浦江波先生 五五二〇四三

相模原市緑区橋本六ノ四二一九

課題 2 (初段階以下)

客が来ると、茶の間は活気づき、事件が起こった。祖父母が眠ると、茶の間も眠り、時を刻む鼓動だけが聞えた。

(「茶の間を旅して」島田雅彦)